第43期 中間事業報告書

平成13年1月1日▶平成13年6月30日

飛翔21

近畿コカ・コーラ ボトリング株式会社

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお喜び申しあげます。

当上半期の清涼飲料業界は、個人消費の低迷を背景とした厳しい市場環境の中で、企業間競争は熾烈を極めました。

当社は、こうした状況下、中期経営計画「飛翔21」の初年度として、これまでの方針を徹底してやり切ることを基本に、選択と集中や人と組織の活性化による「販売力の強化」と経営システムの革新や構造改革の継続による「増収·増益のための基盤強化」などに注力してまいりました。

下半期につきましても、引き続き、厳しい経営環境が続くものと予測されますが、当社におきましては、「企業価値の創造」を基本テーマに経営目標の達成に向けて邁進してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも変らぬご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申しあげます。

平成13年9月

取締役社長
池田昭彦

中間決算ハイライト

[単体]

売上高は、販売数量が増加したことなどにより、775億9千万円（前年同期比3.5%増）となりました。

経常利益は、量販店へのシフトに伴なう商品構成の変化や、競争激化による販売諸費用の増加により、22億2千2百万円（前年同期比31.5%減）となりました。

また、特別損失として、転籍による特別退職金26億2千7百万円と退職給付会計基準変更時差異の償却額20億1千5百万円を計上した結果、16億2千8百万円の中間純損失となりました。

[連結]

（連結対象会社：連結子会社　12社
持分法適用関連会社　1社）

売上高は、868億8百万円（前年同期比6.1%増）、経常利益は、32億4千万円（前年同期比23.2%減）となりました。

また、単体で中間純損失となったため、11億7千5百万円の中間純損失となりました。

当中間期の業績

[単体]

科目＼期別	前中間期	当中間期	前年比（%）
販売函数（千ケース）	35,538	36,799	103.6
売上高（百万円）	74,996	77,590	103.5
営業利益（百万円）	2,867	1,953	68.1
経常利益（百万円）	3,246	2,222	68.5
中間純利益または純損失(△)（百万円）	1,029	△1,628	—

[連結]

科目＼期別	前中間期	当中間期	前年比（%）
売上高（百万円）	81,829	86,808	106.1
営業利益（百万円）	3,961	3,251	82.1
経常利益（百万円）	4,220	3,240	76.8
中間純利益または純損失(△)（百万円）	1,564	△1,175	—

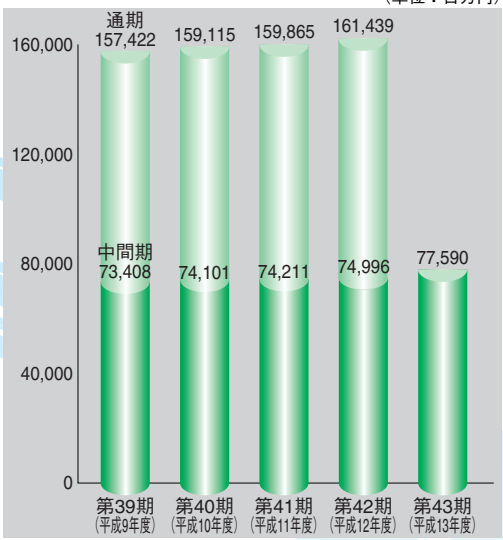
営業の概要

販売面におきましては、「選択と集中」や「人と組織の活性化」を基本とした販売力の強化を目指し、テイクアウト市場とインドア自販機市場に経営資源を重点的に投入しました。また、新規開拓専任者の設置や棚割提案をはじめとする新しい売り方を推進したほか、「まろ茶」「ジョージア ザ・コロンビア」「ファンタ ファンキーレモンC」などの新製品を発売し、一層の販売拡大に努めました。また、「コカ・コーラ」「ジョージア」「アクエリアス」「爽健美茶」の最重点4ブランドを強化すべく、「No Reason Coca−Cola キャンペーン」など、それぞれのブランドごとに、キャンペーンを展開しました。他方、業務提携を行ってきた株式会社ネスコを、4月に完全子会社化したほか、5月には、株式会社エフ・ヴィ西日本の株式を取得するなど、自販機市場での販売拡大と効率化を図りました。加えて、3月末に「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」の開業もあり、販売数量は前年上半期を上回ることができました。

生産面におきましては、4月には、新たに、当社とコカ・コーラウエストジャパン株式会社および四国コカ・コーラボトリング株式会社の三社で、ボトル缶製品の共同生産を開始

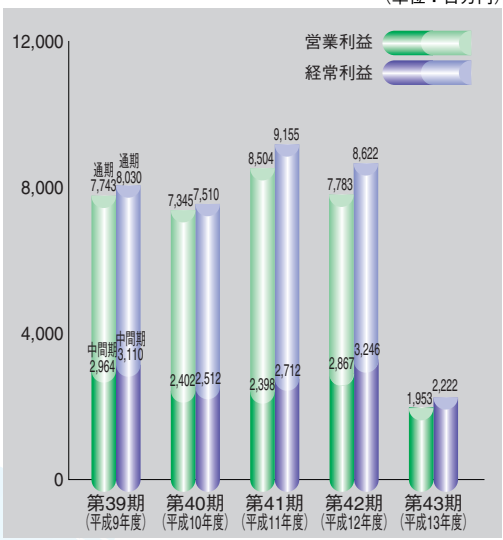
売上高

（単位：百万円）



営業利益／経常利益

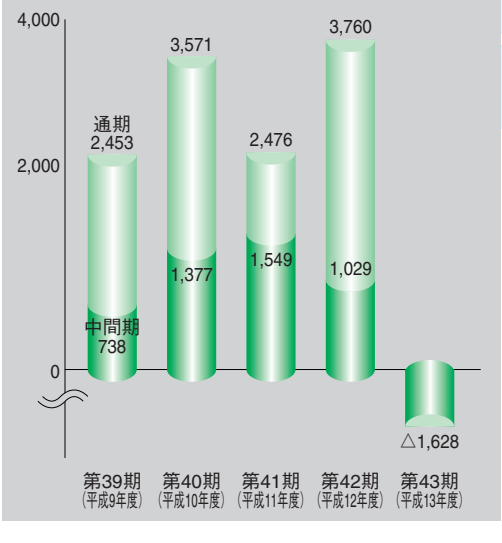
（単位：百万円）



したほか、6月には、2002年4月の稼動に向けて、当社明石工場に、コカ・コーラリフレッシュメントプロダクツ株式会社との共同投資の3ライン目となる無菌充填ラインの導入を決定するなど、今後の生産体制の増強と一層の効率化を目指しました。また、年初より、新鮮な商品をお客様へ提供すべく、製品のフレッシュネスを推進するとともに、製品安全面での機能を拡充するため、品質保証に係わる各組織を統合し、「品質保証部」を新設しました。

経営管理面におきましては、人材育成や経営理念・ビジョンの浸透並びに風土改革の推進に努めるとともに、4月には、当社およびグループ会社の経営基盤の強化やグループ各社の自立に向けて、出向者のうち218名がグループ会社へ転籍しました。他方、コカ・コーラウエストジャパン株式会社と、需要の創造、投資の抑制およびコストの削減を目指す協働プロジェクトを推進したほか、コカ・コーラビバレッジサービス株式会社との、共同調達やボトラー標準システムの開発に注力するなど、コカ・コーラシステム内各社との更なる協働関係を拡大してまいりました。

中間（当期）純利益または純損失　（単位：百万円）



3月31日ユニバーサル・スタジオ・ジャパンオープン

「通期の見通し」は14ページ及び16ページをご覧ください。

（注）グラフは単体の推移を表示したものです。

種類別売上高状況

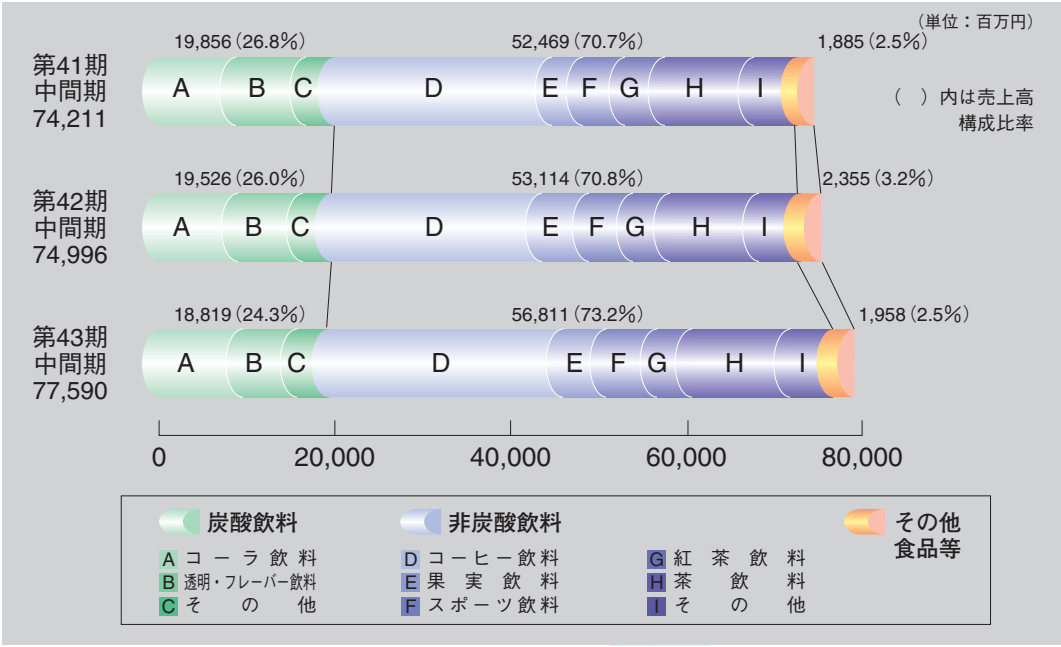
炭酸飲料につきましては、コーラ飲料が、「コカ・コーラ」「ダイエット コカ・コーラ」のNo Reason広告キャンペーンの成果等により、売上高が増加しました（前期比1.4%増）。透明・フレーバー飲料は、「新スプライト」「ファンタ ファンキーレモンC」の発売により売上に貢献しましたが、炭酸飲料全体としては、188億1千9百万円となりました（前期比3.6%減）。

非炭酸飲料につきましては、コーヒー飲料が、新製品「エンブレム」「ジョージア ザ・コロンビア」の発売、また「明日があるさ」広告キャンペーンが社会現象にもなり、増加しました（前期比9.0%増）。果実飲料は、新製品「Qoo（クー） ピーチ」、100%果汁飲料「ミニッツメイド」の新製品の発売により増加しました（前期比4.5%増）。スポーツ飲料は「新　アクエリアス」「新　ミネラルバランス」の導入等により増加（前期比6.9%増）し、茶飲料は、新製品「まろ茶」の発売により大幅な伸びとなりました（前期比10.7%増）。

この結果、非炭酸飲料全体としては、568億1千1百万円（前期比7.0%増）となりました。

その他食品等は、19億5千8百万円（前期比16.8%減）となりました。

種類別売上高の推移



主な新製品

まろ茶　340g缶・500mlPETボトル・2LPETボトル

緑茶本来のコクと甘みを凝縮させた「かぶせ茶」を贅沢に使用し、超低温の45℃でじっくりと丁寧にいれ、「抹茶」で仕上げました。

ファンタファンキーレモンC

350ml缶・500mlPETボトル・1.5LPETボトル

「350mlあたりレモン60個分のビタミンC入り」のファンキーレモンCがファンタの仲間入り。

ウォーターサラダ

350g缶・500mlPETボトル

“野菜不足”や“カロリーの取り過ぎ”など食生活の乱れを感じている現代人のための食生活サポート飲料です。

GEORGIA

ジョージア ザ・コロンビア190g缶

コロンビア豆を100%使用し、コクを極めた「微糖缶コーヒー」。

ジョージア カフェレーチェ

280g缶・290mlPETボトル

深煎りのブラジル豆をベースにしたブレンドに牛乳23%を加え、牛乳のコクのある味わいに負けないコーヒーの味わい。

ジョージア
ミルクで割るとおいしいコーヒー
ストレートで飲むとおいしいコーヒー

900mlPETボトル

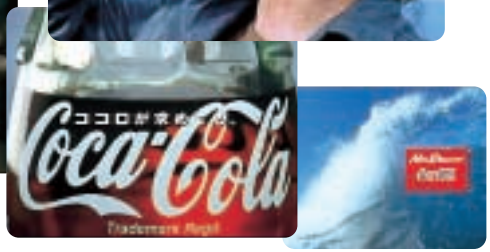
飲み方に合わせて選べるジョージアのボトルコーヒー。

キャンペーン

コカ・コーラ

No Reason
ココロが求めてる

幅広い年代層に支持されている桑田佳祐を起用し、話題性のあるキャンペーン音楽や共感できるCMを提供。



TV - CM

プロモーションポスター

ボトル缶

アクエリアス

Enjoy Sports AQUARIUS

中村俊輔選手を起用し、"エンジョイ・スポーツアクエリアス"のコンセプトで大々的に展開。

NEW

TV - CM

NEW

ミネラルバランスfromアクエリアス
TV - CM

プロモーションポスター

ジョージア

ジョージア
「明日があるさ」

ダウンタウンの浜田雅功をメインキャラクターに、吉本興業の人気タレントの面々が登場する魅力的なキャンペーン。

プロモーションポスター

近頃の若い奴篇

▲休日篇

仲間さん篇

エメラルドマウンテン　ザ・コロンビア

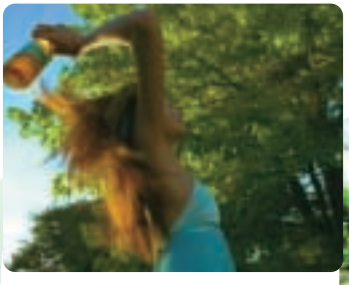
01年
点
ランド

爽健美茶

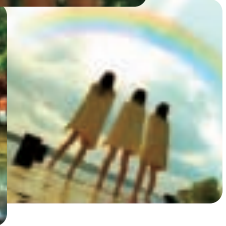
happyキャンペーン

"happyキレイが育ちますように〜きれいが芽生える十種の恵み〜"を新たなキーワードに展開。

倉木麻衣
「爽健美茶ナチュラルブリーズ2001happy live」
ポスター



TV-CM



中期経営計画「飛翔21」”「企業価値の創造」をめざして”

1.ベンディングビジネスの再構築

①自動販売機を管理・運営するオペレーターの効果的なM&A実施。

②グループ各社との戦略統合によるベンディングビジネスの強化。

・1995年5月　自動販売機のオペレーター事業を拡大発展させるため、 全額出資による「アライドベンディング(株)」を設立。(2000年7月近畿コカ・コーラ ベンディング(株)に商号変更)
・当社自動販売機のオペレーション業務を受託し、缶自動販機約35,000台を管理。
・当社の営業所内勤業務を受託。

・2001年5月　当社とコカ・コーラウエストジャパン(株)が全株式を取得し、共同運営。
・当社エリア内約7,500台の自販機を保有する総合オペレーター。
・自販機事業の強化・拡大による競争力の強化と更なる効率化を推進。

2001年7月
エフ・ヴィ西日本が
アライドベンディング社を吸収合併。

・2000年10月
当社と日本コカ・コーラ(株)の認定オペレーターである(株)ネスコが業務提携。
・約2,000台の自動販売機を展開し、インドア市場におけるシェアを拡大。
・2001年4月　当社が全株式を取得し、100%子会社化。

・当社自動販売機のオペレーション業務を受託。
・ペーパーパック・カップヌードルの自動販売機約7,000台を管理。

2.コカ・コーラシステム各社との コラボレーション(協働)の強化

ザ　コカ・コーラカンパニー、日本コカ・コーラ株式会社
および他ボトラー社とのコラボレーション(協働しての取り組み)を
中心とした新たな構造改革によってコストセーブを図り、
その効果を市場に再投入することで競争力の強化をめざしています。

資材調達関係

CCBSC
(コカ・コーラビバレッジサービス(株))

・当社をはじめとする10ボトラー社の原材料・資材(PETボトル・缶・段ボール・甘味料・自販機など)を共同調達し、コストを削減。

情報システム関係

CCBSC IS
(コカ・コーラビバレッジサービス情報システム)

・ボトラー共通の情報システムを開発するために設立、現在、当社を含む12ボトラー社が参画。
・主に調達・生産・物流・会計のしくみ(「SAP」)を開発中。

近畿・CCWJの協働プロジェクト

・調達・生産・物流・マーケティング・情報システムなどを共同で進めるアクションプランを実行。

(CCWJ：コカ・コーラウエストジャパン(株))

生産関係

CCRPC
(コカ・コーラリフレッシュメントプロダクツ(株))

・ザ　コカ・コーラカンパニーの100%出資会社で、西日本地域のボトラーを対象に主に茶系飲料やミネラルウォーターのPETボトル製品の供給を行っている。
・当社明石工場に、CCRPCとの共同投資の3ライン目となる無菌充填ラインの導入を決定。
(2002年4月稼動予定)

ボトラー共同生産

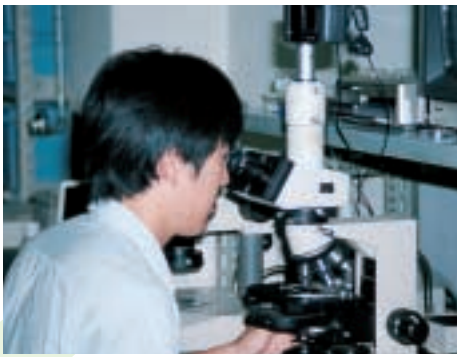
・1999年6月　当社と中京コカ・コーラボトリング(株)が、びん詰めラインを共同投資・共同生産。
・2001年4月　近畿・CCWJ・四国／三社でボトル缶製品を共同生産。

品質保証体制の強化

品質保証に係わる各組織を統合し、本年度より「品質保証部」を新設。

品質保証部は、お客様に安全でおいしい製品を
安心して飲んでいただくための活動を行っています。

- 製造部門に対して品質監査を行うことで、製品の安全をより高めています。
- 営業、販売、物流部門の品質マニュアルを作って、お客様にお届けするまでの品質を守ります。
- 製品安全に迅速に、対応できる社内のしくみを整備、強化しています。
- 化学分析技術、微生物関連技術を高めています。



微生物検査

機器分析

製品検査

カップ自動販売機での検査

トピックス　T O P I C S

熱気あふれる協賛施設。
ユニバーサル・スタジオ・ジャパンの一日。

2001年3月31日華々しくオープンしたユニバーサル・スタジオ・ジャパン。6月末で300万人突破!!これまでの既存テーマパークに比べ、記録的な入場者数。

そんな中、夏休み客で賑わう当社協賛施設の一日を取材しました。

'50年代のおしゃれなレストラン
メルズ・ドライブイン

人気メニューNo.1
ダブルチーズ
バーガー !!

ダイナミックなウォーターアクション
ウォーターワールド

息を飲むド迫力で
のどがカラカラ！

夏休みとともに来客や
家族連れでおおにぎわい！

ウォーターワールド仕様の売店

ちょっと
オアシスで
水分補給！

個別財務諸表の要旨

中間貸借対照表

（単位：百万円）

科目＼期別	当中間期（平成13年6月30日現在）	前中間期（平成12年6月30日現在）	前期（平成12年12月31日現在）	科目＼期別	当中間期（平成13年6月30日現在）	前中間期（平成12年6月30日現在）	前期（平成12年12月31日現在）
流動資産	**33,158**	**38,167**	**40,997**	**流動負債**	**14,867**	**16,221**	**15,739**
現金及び預金	4,726	4,947	11,129	買掛金	5,958	6,432	4,788
受取手形・売掛金	11,094	9,156	9,535	未払金	4,356	4,897	3,546
有価証券	3,070	12,624	9,630	未払法人税等	5	178	1,594
たな卸資産	8,351	6,429	5,845	預り金	597	593	487
その他	5,915	5,008	4,856	その他	3,949	4,119	5,323
固定資産	**74,320**	**68,866**	**67,849**	**固定負債**	**11,106**	**9,625**	**9,751**
有形固定資産	56,564	57,094	55,192	転換社債	8,167	8,167	8,167
建物及び構築物	14,535	14,270	14,147	退職給付引当金	1,600	—	—
機械及び装置	10,988	11,993	10,699	退職給与引当金	—	92	85
販売機器	14,424	13,413	12,310	その他	1,338	1,365	1,498
土地	15,694	16,083	15,694	**負債合計**	**25,974**	**25,846**	**25,491**
その他	921	1,333	2,338	資本金	10,948	10,948	10,948
無形固定資産	1,132	1,402	1,248	法定準備金	11,602	11,483	11,539
投資その他の資産	16,623	10,369	11,408	その他の剰余金	58,546	58,756	60,868
				その他有価証券評価差額金	407	—	—
				資本合計	**81,505**	**81,188**	**83,355**
資産合計	**107,479**	**107,034**	**108,846**	**負債・資本合計**	**107,479**	**107,034**	**108,846**

（注）

	（平成13年6月中間期）	（平成12年6月中間期）	（平成12年12月期）
1. 有形固定資産の減価償却累計額	83,860百万円	85,378百万円	83,592百万円
2. 保証債務	80百万円	151百万円	131百万円

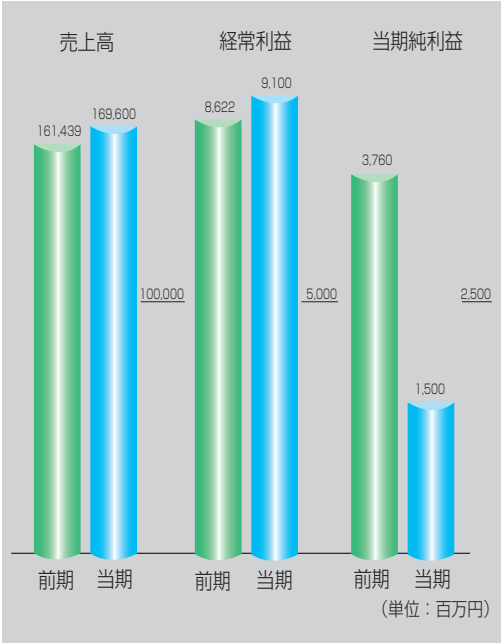
3. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

中間損益計算書

（単位：百万円）

科目＼期別	当中間期（平成13年1月1日から平成13年6月30日まで）	前中間期（平成12年1月1日から平成12年6月30日まで）	前期（平成12年1月1日から平成12年12月31日まで）
売上高	77,590	74,996	161,439
売上原価	40,687	39,122	85,466
売上総利益	**36,902**	**35,874**	**75,972**
販売費及び一般管理費	34,949	33,006	68,189
営業利益	**1,953**	**2,867**	**7,783**
営業外収益	518	684	1,452
営業外費用	249	305	613
経常利益	**2,222**	**3,246**	**8,622**
特別利益	—	124	873
特別損失	4,990	1,543	2,865
税引前中間(当期)純利益又は純損失(△)	**△ 2,767**	**1,827**	**6,630**
法人税、住民税及び事業税	33	148	1,775
法人税等調整額	△ 1,172	649	1,095
中間(当期)純利益又は純損失(△)	**△ 1,628**	**1,029**	**3,760**
前期繰越利益	**2,476**	**817**	**817**
中間配当額	—	—	**563**
利益準備金積立額	—	—	**56**
中間(当期)未処分利益	**848**	**1,846**	**3,958**

通期の見通し （平成13年12月期）



中間配当金は1株につき9円とさせていただきました。また、期末配当金は1株につき9円とし、中間配当金と合わせて**年18円の配当を予定**しています。

連結財務諸表の要旨

中間連結貸借対照表

（単位：百万円）

期別 / 科目	当中間期 (平成13年6月30日現在)	前中間期 (平成12年6月30日現在)	前期 (平成12年12月31日現在)	期別 / 科目	当中間期 (平成13年6月30日現在)	前中間期 (平成12年6月30日現在)	前期 (平成12年12月31日現在)
流動資産	**36,211**	**41,634**	**43,471**	**流動負債**	**21,468**	**22,978**	**22,663**
現金及び預金	6,588	6,741	12,716	支払手形及び買掛金	9,840	10,014	8,789
受取手形・売掛金	12,128	10,118	10,335	短期借入金	2,519	3,073	2,792
有価証券	3,070	12,629	9,630	未払金	4,155	4,429	3,732
たな卸資産	8,863	6,920	6,382	未払法人税等	479	558	1,823
その他	5,561	5,225	4,405	その他	4,473	4,901	5,525
固定資産	**84,271**	**78,123**	**78,658**	**固定負債**	**15,320**	**14,046**	**14,332**
有形固定資産	69,009	68,849	68,200	転換社債	8,167	8,167	8,167
建物及び構築物	17,222	16,558	16,945	長期借入金	3,256	3,950	3,689
機械装置及び運搬具	13,005	14,104	12,791	退職給付引当金	1,864	—	—
販売機器	14,695	13,681	12,586	退職給与引当金	—	235	350
土地	18,427	17,831	18,463	その他	2,032	1,693	2,125
その他	5,658	6,673	7,413	**負債合計**	**36,788**	**37,024**	**36,995**
無形固定資産	3,445	1,548	2,674	**少数株主持分**	**32**	**9**	**21**
投資その他の資産	11,816	7,725	7,783	資本金	10,948	10,948	10,948
				資本準備金	10,040	10,040	10,040
				連結剰余金	62,256	61,737	64,124
				その他有価証券評価差額金	418	—	—
				自己株式	△ 0	△ 1	△ 0
				資本合計	**83,661**	**82,724**	**85,112**
資産合計	**120,483**	**119,758**	**122,129**	負債・少数株主持分及び資本合計	**120,483**	**119,758**	**122,129**

（注）

	（平成13年6月中間期）	（平成12年6月中間期）	（平成12年12月期）
1. 有形固定資産の減価償却累計額	96,741百万円	96,673百万円	96,476百万円
2. 保証債務	551百万円	151百万円	131百万円

3. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

中間連結損益計算書

（単位：百万円）

科目＼期別	当中間期（平成13年1月1日から平成13年6月30日まで）	前中間期（平成12年1月1日から平成12年6月30日まで）	前期（平成12年1月1日から平成12年12月31日まで）
売上高	86,808	81,829	176,398
売上原価	44,586	42,470	92,954
売上総利益	**42,221**	**39,358**	**83,443**
販売費及び一般管理費	38,970	35,397	73,713
営業利益	**3,251**	**3,961**	**9,730**
営業外収益	296	605	1,143
営業外費用	306	345	670
経常利益	**3,240**	**4,220**	**10,203**
特別利益	—	124	919
特別損失	5,108	1,543	2,996
税金等調整前中間(当期)純利益又は純損失(△)	**△ 1,867**	**2,801**	**8,127**
法人税,住民税及び事業税	494	511	2,227
法人税等調整額	△ 1,198	720	1,367
少数株主利益	11	4	17
中間(当期)純利益又は純損失(△)	**△ 1,175**	**1,564**	**4,515**

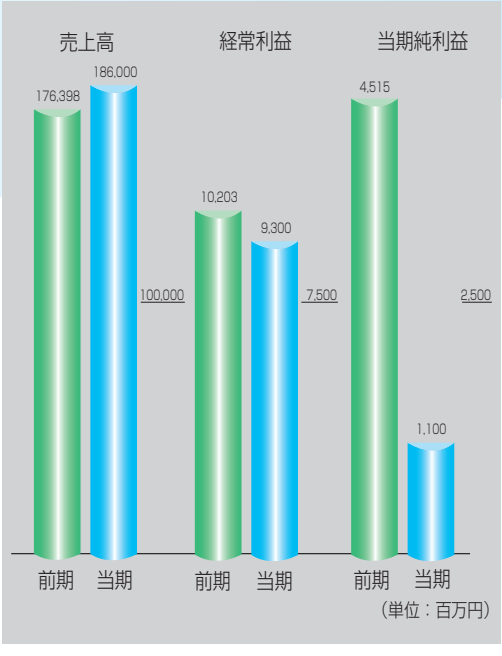
中間連結剰余金計算書

（単位：百万円）

科目＼期別	当中間期（平成13年1月1日から平成13年6月30日まで）		前中間期（平成12年1月1日から平成12年6月30日まで）		前期（平成12年1月1日から平成12年12月31日まで）	
連結剰余金期首残高		64,124		60,785		60,785
連結剰余金減少高						
配当金	563		563		1,126	
役員賞与	128	692	50	613	50	1,176
中間(当期)純利益又は純損失(△)		△1,175		1,564		4,515
連結剰余金中間期末(期末)残高		62,256		61,737		64,124

通期の見通し

（平成13年12月期）



中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科目＼期別	当中間期（平成13年1月1日から平成13年6月30日まで）	前中間期（平成12年1月1日から平成12年6月30日まで）	前期（平成12年1月1日から平成12年12月31日まで）
Ⅰ．営業活動によるキャッシュ・フロー	1,904	4,890	17,337
Ⅱ．投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,548	△ 5,990	△ 17,542
Ⅲ．財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,271	△ 863	△ 2,645
Ⅳ．現金及び現金同等物の減少額	△ 7,915	△ 1,963	△ 2,850
Ⅴ．現金及び現金同等物の期首残高	17,373	20,224	20,224
Ⅵ．現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	9,458	18,260	17,373

（注）1. 現金及び現金同等物の中間期末（期末）残高と中間（期末）連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

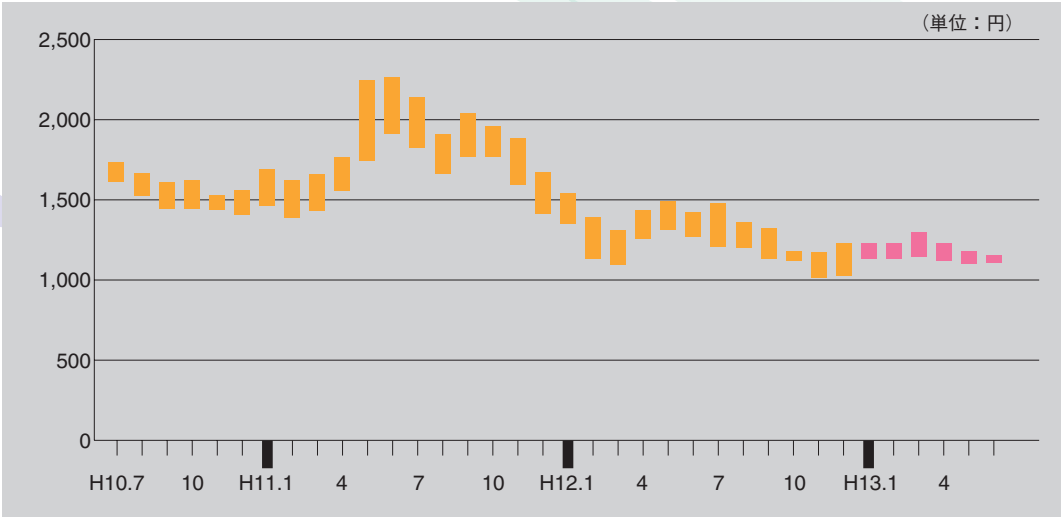
	当中間期（平成13年6月中間期）	前中間期（平成12年6月中間期）	前期（平成12年12月期）
現金及び預金勘定	6,588	6,741	12,716
有価証券勘定	3,070	12,629	9,630
計	9,658	19,370	22,347
預入期間が3ケ月を超える定期預金	△ 195	△ 130	△ 207
価値変動リスクのある株式等有価証券	△ 4	△ 980	△ 4,766
現金及び現金同等物	9,458	18,260	17,373

2. 中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、要求払預金及び取得日から3ケ月以内に満期日の到来する定期性預金及び満期日又は償還日等の定めのない容易に換金可能であり、かつ、価値変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資であります。

株式の状況

1.株価の推移

（平成13年6月30日現在）



2.株式の総数・株主数

会社が発行する株式の総数
■150,000,000株

発行済株式総数
■62,591,049株

株主数
■5,341名

3.大株主

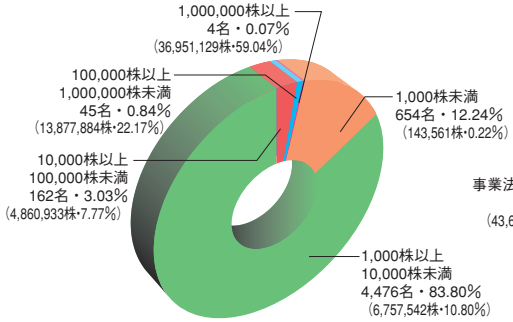
株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
麒麟麦酒株式会社	25,179	40.23
三菱重工業株式会社	9,274	14.82
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	1,554	2.48
近畿コカ・コーラボトリング社員持株会	1,446	2.31
ブラウンブラザーズハリマンメリルリンチ	1,077	1.72
神大和株式会社	1,050	1.68
株式会社弥谷	995	1.59
年金信託受託者中央三井信託銀行株式会社	884	1.41
ドイチェ信託銀行株式会社	692	1.11
エス・バイ・エル株式会社	547	0.87

4.社債の株式転換状況

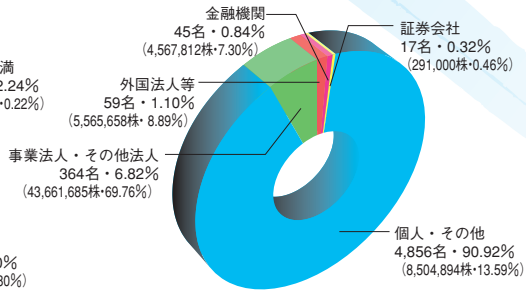
銘柄	発行年月日	発行総額	残高	転換率
第1回国内無担保転換社債	平成8年11月14日	13,000百万円	8,167百万円	37.2%

5.株主分布状況

所有数別株主分布



所有者別株主分布



会社の概況

（平成13年6月30日現在）

1. 商　　号　近畿コカ・コーラ ボトリング株式会社
   KINKI COCA-COLA BOTTLING CO., LTD.
2. 設　　立　昭和35年9月9日
3. 本店所在地　大阪府摂津市千里丘7丁目9番31号
   電話（06）6330-2222（代表）
4. 資 本 金　10,948,108,301円
5. 主要な事業内容　大阪府、兵庫県および京都府を販売地域として、清涼飲料の製造および販売を主な事業内容としております。
6. 従 業 員 数　1,984名（出向者395名を含みます）
   上記のほか、臨時従業員１名が在籍しております。
7. 事 業 所

工　　場	明石工場・京都工場・コーヒー焙煎工場
物流部統括の物流センター	京都ロジスティクスセンターほか16物流センター
量販営業部統括の支店	量販京都第一支店ほか９支店
支　　社	支社統括の支店・営業所
京都支社	中京支店ほか４支店
大阪支社	大阪中央支店ほか５支店
南大阪支社	大東支店ほか５支店・１営業所
神戸支社	尼崎支店ほか７支店
北近畿播磨支社	豊岡支店ほか４支店

（注）明石工場は、当社100%子会社近畿コカ・コーラプロダクツ株式会社に貸与し、当社がコカ・コーラリフレッシュメントプロダクツ株式会社より受託した製品の製造を行っております。

役員（平成13年6月30日現在）

取締役社長（代表取締役）	池田昭彦	取締役	多田喜廣
専務取締役	中村弘	取締役	西田尚弘
常務取締役	木村元信	取締役	樽谷中
常務取締役	栄沢徹	取締役	吉松民雄
常務取締役	野上秀昭	取締役	服部寿一
常務取締役	野間重男	取締役	太田利充
常務取締役	秀平俊章	取締役	佐藤安弘
取締役	山口隆司	取締役	佃和夫
取締役	大川篤	常勤監査役	津田啓二
取締役	星加秀機	常勤監査役	稲葉喜三郎
取締役	田中洋	常勤監査役	宮崎豊

株主メモ

決算期	12月31日
株主確定基準日	
●定時株主総会、利益配当金	12月31日
●中間配当金	6月30日
定時株主総会	3月
名義書換代理人	〒100－8212東京都千代田区永田町二丁目11番1号 三菱信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒100－8212東京都千代田区永田町二丁目11番1号 三菱信託銀行株式会社　証券代行部
（郵便物送付先 電話照会先）	〒171－8508東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 三菱信託銀行株式会社　証券代行部 電話（03）5391－1900（代表）
同取次所	三菱信託銀行株式会社　全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞
株主優待	毎年12月31日現在の1,000株以上ご所有の株主さまに対し、3,300円相当の当社製品を4月中旬に贈呈します。

お知らせ

1. 住所変更、配当金振込指定・変更、単位未満株式買取請求に必要な各用紙、および株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120－86－4490で24時間承っておりますので、ご利用ください。
2. 配当金を郵便貯金口座へお振込みすることができるようになりました。お手続きには振込指定書のご提出が必要ですので名義書換代理人に指定書用紙をご請求ください。

証券コード	2576
ホームページアドレス	http://www.kinki.ccbc.co.jp

本紙は再生紙を使用しています。